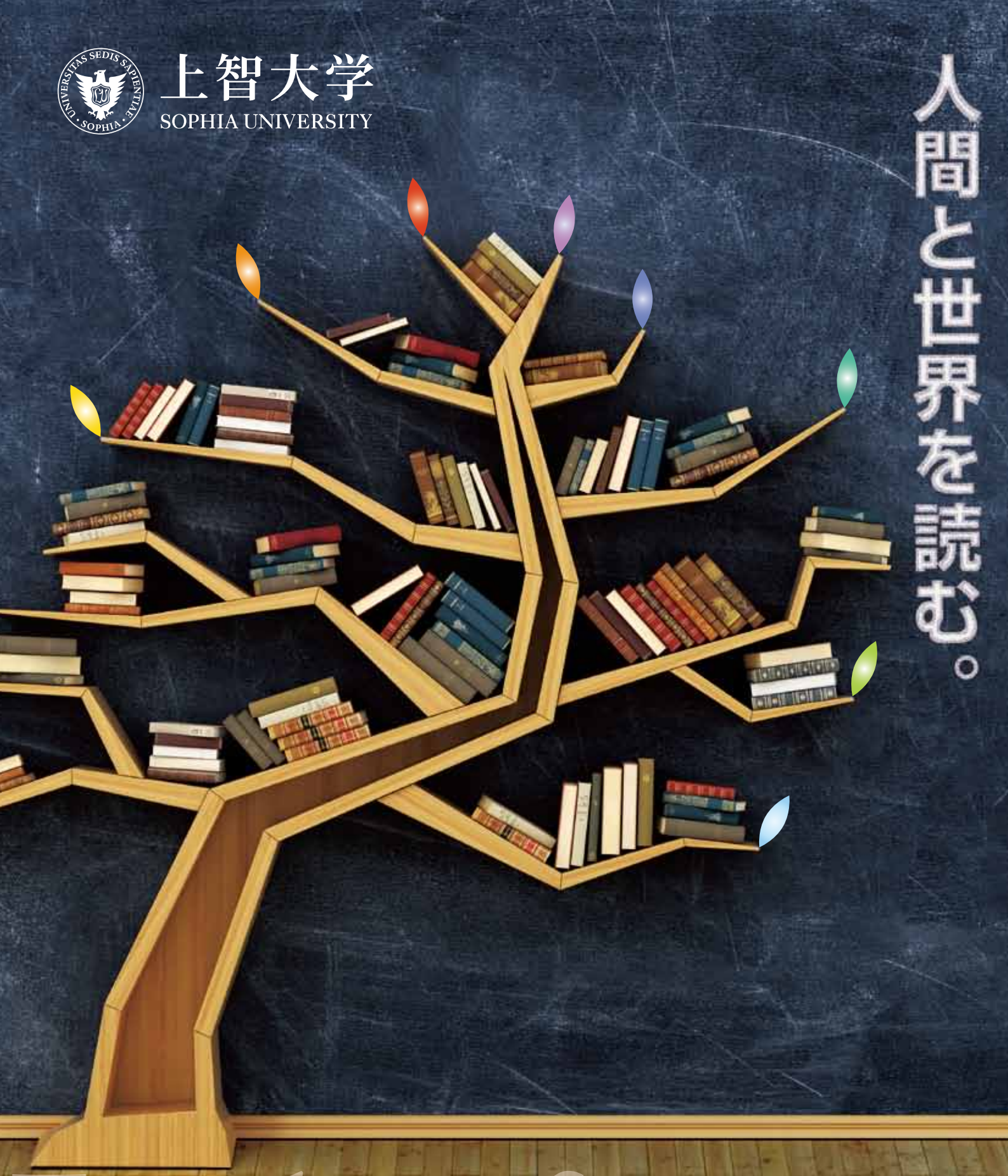
上智大学
SOPHIA UNIVERSITY

人間と世界を読む。



Faculty of Humanities

2019 上智大学 文学部

テクストを通して人間と世界

哲学科

柴田 光（3年）

哲学について学ぶだけでなく自分で考える環境をつくる

■上智大学の哲学科には、「哲学に対して１から全部、基礎的なものを教えるぞ！」という雰囲気が感じられます。哲学史の授業も充実していて、中世のキリスト教と結びついた哲学も学べるところがカトリック大学ならではのところです。■また哲学科には、積極的に「自主ゼミ」を作る文化があります。自分たちで興味あるテーマを研究する会を作って登録し、教室を借りてみんなで毎週文献を読み、日常的にディスカッションを行っています。

❖学修の流れ：哲学科は、１、２年生でゼミがあります。文献を読む、自分の考えをまとめて話す、人の前で発表する、思考するやり方をしっかり１年生のうちから学び、２年生で固めて、３、４年生から自分の好きな分野を勉強していくという流れです。
❖ここで一番培われるもの：いわゆるコミュニケーション能力です。考える力、人と話し合う力、伝える力。どんな職業に就いても活かせると思いますね。

史学科

徳元 萌（4年）

過去の出来事をただ調べるのではなく自分なりの歴史像をもつ

■高校の時は、歴史というのは、過去の出来事と思っていたのですが、大学に入学し、「歴史は、過去の事件・出来事に対するものの見方であり、絶対的なものではない」という話を聞いて、歴史に対するイメージが変わりました。「本に書いてあることも、まず疑う」、「いろいろな見方からものを考えるようにする」という学びを得て、根拠のある自分なりの歴史像を持てるというのが歴史学のおもしろさです。■先生との距離感が近く、自分からアドバイスを求めれば、必ず応えてくれるはずです。キリスト教に関する授業が多いのも、上智大学の特色ですね。■１年生の必修科目「歴史学研究入門」で先生から提示された「なぜ、歴史を学ばなければならないのか」という問いに対して、自分なりの答えを見つけたいと思います。

❖卒論：テーマは、16世紀ポーランドルネサンスの歴史。ポーランド語の文献を読む必要があり、半年間ポーランドに語学留学をしました。卒業後は、大学院に進学したいと思います。

ドイツ文学科

河合 夏輝（4年）

多面的に見て、考え、自分の意見を出すおもしろさ

■英語圏からの入学だったため、最初にドイツ語の授業でつまずきました。先生に相談したところ、一対一で対応していただくことができました。辛いときこそ心強いです。■僕にとって一番興味深かった授業は「ドイツ文化思想史」です。ドイツの文化研究は、文学や芸術など多面的な学習が必要です。授業では書物にとどまらず歴史にからむものすべてを取り扱うので、時系列で何がどのように変化したのか、よくわかります。バウハウスという建築の学校に関する卒論をまとめるにあたり、この授業の情報が役立ちました。

❖４年間を振り返る：人間としてゆったりしましたね。いろいろな人の思想から刺激を受けて、自分の哲学をどんどん構成していける。自分の答えを見つけやすくなり、考えが豊かになる。そこが文学部の強みだと思います。

フランス文学科

久木元 真奈（3年）

徹底的にフランス語を学び、今年から念願の留学フランス文化への探究心が高まる

■この学科を選んだ理由は、１つが先生方の多彩さ。文学はもちろん、美術や映画、オペラなどを研究される先生方もいらっしゃるので、文学を学びながら幅広い分野の勉強もできるのが特色です。もう１つは、留学制度が整っていることです。アフリカ諸国をふくむフランス語圏の提携大学も多く、私はこの夏から１年間、フランスに留学します。■語学の授業は、１クラス30人くらいで、学生たちはもちろん、先生との距離感も近く、本当にフレンドリーです。留学されていた先生が多くいらっしゃるので、その時の経験談などいろいろ教えてもらえます。

❖フランス語の勉強：入学前は、ラジオのフランス語講座を聴くくらい。入学からの２年間ですごく伸びたと思うので、上智大学の語学教育は、カリキュラムも教え方も本当にすごいと思います。
❖展望：文学だけでなく、美術、映画を含めたフランス文化のおもしろさを伝えるような仕事がしたいので、出版社や映画の配給会社などを考えています。

を読む ― 各学科・研究室の声

国文学科

芥川 伊織（3年）

調べる・意見をまとめる・発表する スキルを鍛える「演習」

■２年生から「演習」という授業がとれます。僕の参加した西周（にしあまね）の国語研究を読む演習では、おおまかなテーマが１つ出され、その中から各自が興味ある事項を見つけだして、資料を集め、主張を作り、授業で発表します。■この演習の特長は、１から10まで全部学生１人で作って授業で発表する形態をとっていることです。最初は何をやっていいのか分からず不安でいっぱいでしたが、調べるうちに西周の漢字論に興味がわいてきました。■本を読む機会が多いのですが、その中ですてきな表現に出会う機会が多々あります。さまざまな表現を知ることで、心のうちがちょっと豊かになると僕は思います。少しでも心のなかを豊かにしたい人には国文学科をお勧めします。

❖展望：調べあげるスキルや意見をまとめる・論理的に考える力は、卒業後も活かせるのではないかと思います。アミューズメント系など、人を楽しませる仕事をしたいと常々考えています。

英文学科

大村 愛（3年）

授業やゼミのなかで 学生１人１人の 刺激的な考え方に出会える

■この学科に集まる学生は英語に興味があって、英語のスキルアップを目指す思いは同じですが、英語との結びつきのストーリーが１人１人違うからおもしろい。自分と違う背景をもつ人たちと出会って感じる発見が、自分の成長の刺激になっています。

■１、２年生には、英語力の基礎を身につけるカリキュラムがしっかり組まれており、文学作品や文学研究に関連したさまざまな文献を精読する授業があります。１年生の必修でONLY ENGLISHの「Discussion & Presentation」という授業があり、まんべんなく英語力を鍛えることができました。３、４年生で、１、２年生で身につけた英語力や基礎を活かして、実際に研究を行ないます。

❖卒論：社会言語学を中心とした言語学の分野を考えています。新しく生まれてくる英単語はどのように作られるのかなど、中高生の頃から興味がありました。

❖展望：英語の教員を目指すため、この学科を選びました。来年は教育実習に行き、教員免許をとる予定です。

新聞学科

小林 悠太郎（3年）

編集や取材などの フィールドワークで感じた 事前準備の大切さ

■「メディアリサーチ」という新聞の読み方を学ぶ授業では、批判的なものの見方を学びます。プレスリリース資料を読み、そのあと、その内容を報じた新聞記事と読み比べ、どういう視点が入っているか検証する。また実際に、プレスリリースをもとに、それを記事にするなどは、この学科らしい課題です。■いちばん刺激的だったのが「メディアリテラシー」という実際にテレビ制作を行う授業です。２人１組で１分間のニュースを作る際は、事前準備はしたものの、スタジオを使える時間が制限されていたので焦りました。■企画段階で、視聴者に伝えたいことをしっかり煮詰めておかないと、取材先からそれを聞き出すことはできません。取材相手のことを事前に知っておく必要もあり、表現力やコミュニケーション能力の大切さも感じました。

❖今年のゼミ論文：ハリウッド映画の「ホワイトウォッシング」（白人以外の役に白人があてられること）の実態とその背景について、調べてみたいと考えています。

保健体育研究室

研究室長　島　健　教授

文学部の一員として＜ウエルネス＞や＜身体知＞、＜スポーツ文化＞を考える

保健体育研究室の開講する、全学共通必修科目「ウエルネスと身体」は、健康であるだけではなく、より自分らしいライフスタイルを獲得していく＜ウエルネス＞と、身体で感じて考える＜身体知＞について学ぶ大事な教養科目です。また、選択科目では講義・演習・実技など、身体やスポーツについて様々な視点から新しい知見を得られる授業を開講しています。

特に、横断型人文学プログラムでは「身体・スポーツ文化論コース」で、身体と心の関係やスポーツという文化を人文学的観点から検証し、身体とスポーツから「人間を考える」機会をみなさんに提供します。また、本学の取り組んでいる共生社会の実現について考える、教養科目群を体系的に学ぶ「インクルーシブ社会を目指すための教育推進プログラム」も担当しています。

保健体育研究室の提供する「身体で感じ、身体で考える授業」を、ぜひ学んでみてください。

人文学的視点を核にしながら
“創造的な学びの機会” を提供

「横断型人文学プログラム」

学科の専門の枠を超えて、今まで考えてもみなかったつながりを探求する、そんな創造的な学びの機会を提供するプログラムです。「身体・スポーツ文化論コース」「芸術文化論コース」「ジャパノロジー・コース」の３コースがあり、それぞれに独自の科目が用意されています。プログラムを受講する学生は、興味をもった分野を選択し、より積極的に知識を深めてゆくことができます。

プロジェクト・ゼミ

学生の興味にあわせて作りあげるクラス

研究テーマを定め、学科の壁を越えた複数の学生が協力してリサーチ、分析、必要に応じてフィールドワークも行うなどしてプレゼンテーションへとつなげていきます。研究成果の発表会も予定しています。

身体・スポーツ文化論コース

- 身心論
- 身体・スポーツ・社会Ⅰ
- 身体・スポーツ・社会Ⅱ
- 世界のスポーツ・身体文化論
- 東洋身体文化論
- 舞踊文化論

芸術文化論コース

- 映像芸術の世界
- 造形芸術の世界
- 舞台芸術の世界
- 芸術・メディアとアーカイブ
- 映像文化論
- 音楽文化論
- 美術文化論
- 舞踊文化論

ジャパノロジー・コース

- ジャパノロジー概論
- フィールドワーク入門
- キリシタン文化史 A/B
- 多様性の日本民俗文化
- 東洋身体文化論
- 日中文化交渉史 A/B
- 日本思想
- 日本思想テキスト演習
- ヨーロッパと NIPPON

個別選択科目

確かな視点を養うとともに人文学の広さと深さを知る

テクストを読む

「読み方」を学ぶクラス。テクストとは、文字だけでなく史跡や遺物などの物・絵画・映像・身体など「読んで解釈できるもの」すべてが対象です。

文化交渉入門

「外来文化の受容」や自国文化を海外に発信する時に生じる「文化変容」についての理解を深めるクラス。文学・美術・音楽・演劇・スポーツなど、幅広い事例を考察します。

共通基礎科目

- 哲学科
- 史学科
- 国文学科
- 英文学科
- ドイツ文学科
- フランス文学科
- 新聞学科
- 保健体育研究室

詳しくは《文学部オリジナルサイト》へ。　**http://sophia-humanities.jp/**